

主は平和を与えてくださる

新しい世界は可能である

2003年OFM総集会で採択された
J P I Cに関する提案事項実践のための手引き



目 次

はじめに.....	6
被造世界に及ぼす私たちの生き方の影響力 エコロジカルな回心 と環境正義	9
. エコロジカルな回心	9
. 環境正義	11
. フランシスカンの応答	13
. 質問	15
積極的な非暴力 生活の健全な二極化.....	16
. フランシスコとクララからインスピレーションを受けた福 音的非暴力の生活	16
. 個人的な生活に見られる暴力	18
. 地域および管区の兄弟生活に見られる暴力.....	18
. 私たちが住んでいる社会に見られる暴力	19
. 生活の健全な二極化と破壊的な対立	20
. 行動のための挑戦.....	20
. 質問	21
難民、移民、少数民族、土地を持たない人々、国内避難民に対す る特別な配慮 どのような人々も不法ではない	22
. 転々と移動する人々：世界的な問題	22
. フランシスカンとしての私たちの応答.....	24
. 質問	25

倫理的投資 - 信頼性、共産社会的責任、福音的価値観.....	26
. なぜ私たちは財産の倫理的な活用に配慮しなければならない いか.....	26
. 経済的・金銭的活動に関する倫理的ポリシーをどのように 打ち立てるか.....	28
. 質問.....	30
財産の責任ある使い方 重要なものとそれほど重要でないもの	31
. 考えるきっかけとなったエピソード.....	31
. 考察：金銭に対する態度.....	32
. 関心事.....	33
. 質問.....	35
J P I Cコース 教えと使命（実践）.....	36
. 総集会.....	36
. 哲学的・神学的探求とJ P I C.....	37
. 質問.....	38

この世界は、私たちが存在し、行動するための場所です。フランススコ会の歴史をひもとくと、初期の資料に「この世界は私たちの修道院です」という記述があります。この世界が、聖霊の御働きに促され、ゆっくりと着実に変化を遂げることによって、神の国は、歴史の中で現実のものとなりつつあるということも私たちは知っています。時のしるしは、この新しい世界のために働く責任が私たちにあることを教えてくれます。この責任を果たすために、兄弟の皆さん、「主は平和を与えてくださる - 新しい世界は可能である」ことを宣べ伝えましょう。真の平和は、新しい正義の世界のために働くよう私たちに求めています。

この手引き書は、すべての兄弟が個人で、また、共同体として、2003年の総集会で出されたJPICに関する提案について考察するのを助けるために、提供されるものです。

2005年4月

JPIC活性化委員会編集者
兄弟ロドリゴ・デ・カストロ・アメデ・ペレ
OFM・JPIC担当室室長
兄弟アレハンドロ・カスティロ・モルガ
OFM・JPIC担当室副室長

はじめに

2003年の総集会は、2003年から2009年の6年間に、兄弟たちが個人で、また共同生活の中で実践してゆくための提案を承認しました。この総集会は、会のすべての管区が、正義・平和・被造物の保全に関する提案を実践するのを助けるよう、JPIC担当室に要請しました。そこで、私たちは、この目的のために、小さな手引き書を作成し、JPICに関する総集会の提案の実践に着手することにいたしました。

総集会のJPICに関する提案はそれぞれ、私たちの兄弟的な生活のさまざまな分野に目を留めるよう私たちを促しています。例えば、環境正義 / 持続可能性；積極的な福音的非暴力；被疎外者のために働くこと；倫理的投資 / 物品の責任ある活用；JPICについての研究など。この小冊子は、すべての兄弟が個人として、また共同体として、JPICに関する提案に含まれている課題について考えるための手引きです。これは、各人に助けとなる手引きであって、提案のすべての要素や側面を網羅することを目指しているわけではなく、むしろ、対話と交流を通して、実際にとるべき行動を探るための考察と協力を促す刺激剤となることを願っています。JPIC担当室は、私たちの会の多様性と豊かさに応えるために、この小冊子の中で、次のような方々の協力をお願いしました。北半球および南半球の二つのフランシスコ会施設、すなわち、Mission Centrale der Franziskaner (MZF) と Franciscans International Geneva (FI)；ブラジルのフランシスカン家族の正義・平和・環境を守るインター・フランシスカン・サービス (SINFRAJUPE) で働く、ブラジルの無原罪の御宿り管区 (Province of the Immaculate Conception in Brazil) の兄弟ホセ・アラミロ；米国聖なる御名管区の JPIC アニメーション委員会のメンバーであり、有期誓願期の養成担当者である兄弟ジョゼフ・ロザンスキー；インドの使徒聖トマス管区の管区書記、兄弟ポビー・ヴァダッカルと管区会計、兄弟バブ・ホセ・パンパニー；PAAの神学教授であり、ドイツの三人の王管区の神学者、兄弟ヨヨハンネ・バプチスト・フレイヤー。

M Z F は、環境問題に心を開き、現代社会の環境正義のために必要な働きをなすことによって、被造世界に及ぼす私たちの生活様式の影響について考えるようにと促しています。兄弟ホセ・アラミロは、ラテン・アメリカにおける積極的な非暴力の体験から出発して、私たちに、紛争の多い世界においては、二極化も愛の精神で受け入れるならば悪いものではないと教えています。また、FI は、人類は、難民であれ、移民であれ、少数民族であれ、また、土地を持たない人であれ、亡命者であれ、決して不法ではないことを示しています。兄弟ジョゼフ・ロザンスキーは、倫理的投資について、透明性の必要性について、福音的価値との一致について、財源を得るために兄弟共同体全体が責任を有していることについて、語っています。兄弟ボビー・ヴァダッカルと兄弟バブ・ホセ・パンパニーは、資源の活用において、何が本質的で、何が本質的でないか、何を放置し、何を開拓すべきかを自分に問うてみるようにと促しています。兄弟ヨハンネ・パプチスト・フレイヤーは、フランスカンの研究の中心は、世界が抱える問題や私たちの信仰およびフランスカンの伝統が対話するところにあり、従って、正義・平和・被造物の保全の問題は哲学的・神学的研究の中で決して片隅に追いやられるべきものではないと言っています。

私たちが存在し、行動する場所はこの現実社会の中にあるのです。初期のフランスカンの資料にもあるように、「私たちの修道院とはこの世界のこと」なのです（3人の伴侶の伝記 63）。私たちはまた、神の国が、聖霊の御働きに導かれて、困難な絶えざる変容を遂げるこの世界の歴史の中に実現される現実であることを知っています。今日、多くの「時のしるし」が、新しい世界の可能性とそれに対する責任を示しています。この責任を共に果たすために、兄弟の皆さんに、総集会の宣言「主があなたに平和を与えてくださいますように」を「新しい世界は可能」という言葉を付け加えて、自分のものとしてくださるようお願いいたします。このように、真の平和を告げ知らせるならば、新しい別の世界が実現するということを、はっきり表明したいと思います。

総集会は、教会の公の教えに示された指針を再び取り上げ、時

のしるしについてたびたび言及し、そうしたしるしを読み取り、解釈するようにと私たちを促しています。それらのしるしは、必ずしも差し迫ったものではなく、また、個人では読み取りやすいものではありませんが、共同で研究することによって、見極め、解釈する必要があります。私たち小さき兄弟にとって、この課題を成し遂げる最適の場所は、あらゆるレベルの兄弟共同体です（「主があなたに平和を与えてくださいますように！」⁶）。新しい別の世界を探し求めているすべての人と共に力を合わせて行きましょう。

時のしるしは、しばしば曖昧です、少なくとも見た目には。時のしるしには、肯定的な面と否定的な面がありますが、多種多様で複雑な現代の人間社会では、一概には言えません。しかしながら、それらのしるしは、私たちに絶えず行動を促し、変化し、回心するように働きかけています。

2003年の総集会は、私たちにいくつかのガイダンスを与えています。私たちが巡業の旅路を歩むように、また、分裂と矛盾のあるところに存在するように、苦しんでいる兄弟姉妹と共にいるように励ましています。J P I Cに関する提案事項では、総集会は、時のしるしが雄弁に語っている分裂の場所を指し示しています。

私たちは、これらの考察に基づき、自分の生き方を吟味し、この世における、また、この世との関わりにおける自分の生活様式を見直すように求められています。この小冊子は、そのための対話の手がかりとなることを目指しており、総集会の提案事項の一つ一つについて考察と実践を促すための質問を設けてあります。

O F M、J P I C担当室本部
イタリア、ローマ

被造世界に及ぼす私たちの生き方の影響力 エコロジカルな回心と環境正義

総集会の要請により、会のすべての管区は、2003年から2009年の6年間にJPIIC担当室の助けを借りて、次のことを実行しなければなりません。すなわち、私たちの生き方とそれが被造物に及ぼす影響について吟味すること、環境に関してもっと責任ある行動をとり、環境正義を守ること。

イタリア、アシジでの2003年総集会

私たち小さき兄弟が福音書に照らして吟味し、解釈しなければならぬ時のしるしの一つは、この地球との関わり方です。2003年の総集会の総括文書には、総集会の参加者は、私たちの生きている環境のネガティブな現実、例えば、容赦のない自然破壊などによって、特別に尋問されているように感じていたと書かれています。しかし、彼らもいくばくかのいのちと希望のしるしを発見したのです。この文書は、被造世界の営み全体およびその創造主である神との相互関係と交流として理解されている対話を、小さき兄弟の歩むべき道であると指摘しています。確かに、「対話は、私たちの生活のすべての次元を含みます。すなわち、被造物との関わり、社会との関わり、兄弟共同体との関わり、そして宣教する使命との関わりです。」

．エコロジカルな回心

教皇ヨハネ・パウロ2世は、2001年1月17日の公式会見で、人類は創造主である神のしもべから、被造世界を勝手に支配する暴君になってしまったと述べて、環境破壊を食い止める義務が私たち全員にあることを強調しました。教皇はエコロジカルな回心を強く訴え、「もう一つの歓迎するべきしるしは、生活の質と

エコロジーにますます多くの注意が払われるようになったことで、それは、特に人々の関心が生存に関わる問題よりもむしろ、生活条件の全般的な改善の追求に向けられるようになった、比較的発展した社会において顕著です」(いのちの福音 27)と述べています。教皇によると、「ここでいうエコロジーとは、さまざまな生き物の生息地を守ることに配慮する“物理的(physical)”エコロジーだけではなく、生命の基本的な価値をあらゆる形で守ることによって、また、未来の世代のために、創造主のご計画に沿った環境を整えることによって、被造物の存在にもっと威厳をもたせる“人間的な(human)”エコロジーでもあるのです。」

現代社会は、生命という観点から見ると、環境維持が難しい方向に進んでいます。土地は砂漠化し、水不足は世界人口の三分の一を占める人々にとって深刻な問題です。大気中の二酸化炭素やその他のガスの超過排出量は、地球温暖化の原因となっており、極地の氷河を溶かし、海面を上昇させ、農業にとっても、また、多くの都市や島国にとっても、壊滅的な結末を招きかねません。オゾンホールによって、私たちは、紫外線の危険にさらされています。大規模な森林伐採によって私たちはものすごい速さで動植物の種類を失いつつあり、そのあまりの速さのゆえに、そのことに気がつかないほどです。植物の種類を失うことによって、人類は重要な薬草の秘密まで一緒に失ってしまっている可能性があります。こうした破壊は、自然と調和して生きてきた人々の伝統的な生き方をも破壊してしまっているのです。私たちは、文化と人種の多様性を急速に失っていると同時に、そうした人々に関して蓄積してきた知識をも失っています。生物的海賊行為(bio-piracy)および遺伝子操作とそれによる遺伝子の弱体化の可能性は現実のものとなってきていますが、それのもたらす結果は想像を絶するものです。世界の国々が、国民の健康や教育、食料生産などの水準を高めることに成功したにもかかわらず、私たちは、自分たちが今失っているものが多様性に満ちた生命そのものであることに気づいています。

．環境正義

世界人口のほぼ80パーセントの人々の生活の質と、自然界そのものの生命の質に目を向けるならば、近い将来この地球に深刻な結果をもたらす環境の不正義（environmental injustice）の問題に突き当たります。環境の不正義とは、次のように理解されています。すなわち、「経済的・社会的観点から見て、不平等な社会が、開発による環境破壊のつけの大部分を最も貧しい人々、差別された人種、伝統文化を守っている少数民族、労働者階級、被疎外者など、弱い人々に負わせるようなメカニズムのことです。この環境の不正義は、生産システムと土地利用の歪んだロジック、生態系の破壊、汚染物質の投棄の結果であり、それらのすべては、巨大な開発計画から閉め出された人々の健康状態を危険にさらしています。このロジックは、多くの人々を都会の片隅に追いやり、飲み水も満足になく、ゴミも収集されず、下水道設備もない、いわば公民権もないに等しい状態に置いています。このロジックは、多数派にもかかわらず、貧しいがゆえに、特に権力社会で耳を傾けてもらえないこれらの人たちの環境や衛生状態を危険にさらす一方で、大企業により多くを稼ぐチャンスを与えているのです」（www.fase.org.br）

レオナルド・ボッフ（Leonardo Boff）は、こう言っています。「人類が自分の冒している危険に気づくにつれ、全体的なエコロジーに対する関心は高くなります。最近数十年間に、私たちは自己破壊の原則というものを作り出しました。私たちはこの生物圏を、すでに何度もセットアップした死の機械で破壊することができます。そして、私たちの住むべき唯一の家である地球という惑星を破壊することができるのです。この気づきは、まだみんなが持っているわけではありませんが、日に日に広がっています。そして、切迫したものになっています。私たちは文明というパラダ

イム、すなわち、自然を略奪し、人間を抑圧するものを変えなければ、ますます悪い方向に突き進みます。今回は、「ノアの箱船」があって、あるものは救われ、その他のものは消滅するというようなことはありません。全員が消滅するか、全員が救われるかのどちらかなのです。この事実を認識し、真剣に取り組めば、取り組むほど、人々の意識が変わり、この地球と人類の共通の未来に対する共同責任が生まれるでしょう。」その結果、「私たちは、すべての人を守る使命を引き受け、自然のおよび文化的な共通の遺産の守護者とならなければなりません。それは、生物圏が将来も、「われわれの遺産」だけでなくすべての人々の遺産であり続けるように働くことによって実現します。このような共同責任を持たせる精神的風土があるからこそ、私たちはすべての人と、すべての生きとし生けるものを尊重するでしょう。」

「地球憲章」は、その前文の中で次のように述べています。「私たちは地球の歴史上重大な危機に直面しています。つまり、人類が未来を選択しなければならない時を迎えているのです。世界がますます相互依存的になり、もろくなるにつれ、未来には大きな破滅と大きな約束の両方が待ち受けています。前進するためには、文化や生活様式が見事な多様性を示している中で、私たちが一つの人間家族であり、共通の運命を背負った一つの地球共同体であるということを認識する必要があります。私たちは、力を合わせて、自然と普遍的な人権と経済正義と平和の文化への尊重の上に成り立つ持続可能な地球社会を築き上げなければなりません。この目的のためには、地球国民である私たちが、互いに対する、また、より大きな生命共同体と未来世代に対する責任を宣言することが絶対に必要です。人類は、進化しつつある広大な宇宙の一部なのです。私たちの家であるこの地球は、ユニークな生命共同体で満ちあふれています。自然の力は、生存を厳しい、不確かな冒険にしていますが、地球は、生命の進化に不可欠の条件を提供してくれています。生命共同体の復元力と人類の幸福は、生態系や多種多様な動植物、豊かな土壌、きれいな水、きれいな空気をも

った健全な生物圏を守ることができるかどうかにかかっています。有限の資源を持つ地球環境は、すべての人々の共通の関心事です。地球の活力と多様性と美しさを守ることは、神聖な義務なのです。」

ポルトアレグレおよびムンバイで開かれた「世界ソーシャル・フォーラム」は、「別の世界は可能である」ことを宣言し、信じています。つまり、権力や富や利益を中心とせず、兄弟愛と連帯と、そして、宇宙全体の生命を尊重し、守ることを中心とする新しい世界、その中ではすべての生き物が優しく、しかも生き生きとしており、まるで兄弟姉妹のように尊敬され、守られる世界のことです。

・フランシスカンの応答

フランシスコとクララは、当時の社会背景を考えると、ハンセン病者や貧しい人々、教会、社会、自然に対して新しい関わり方をしていました。フランシスカンの霊性の豊かさは、その中に、エコロジカルな霊性、すべての被造物に対するフランシスコとクララの優しさ、そしてその結果生まれた兄弟姉妹的な宇宙観の探求と、無所有・無権力・無支配の持つ神秘性、最も貧しい人々との深い連帯、慈しみの心と和睦を切に求める心などを含みます。

多くの人々が生きている人間以下の状況や極端な貧困に直面して、また、陵辱され、荒らされた自然界を目にして、私たち小さき兄弟のとるべき立場とはどのようなものでしょうか。聖フランシスコの作った「太陽の歌」や「平和のための祈り」は、人々が見捨てられ、母なる自然が顧みられない現在において、最適な計画、賢明な福音的態度となり得ます。

私たちは、小さき兄弟として、個人的なレベルで、兄弟共同体

の中で、また、自分の働いている組織や場所で、フランスカンの霊性を共に、はっきりと表すように求められています。被造物の保全、自然界の均衡、被造世界全体に所属することの意味と理由の発見を、言葉と特に具体的な行動によって、訴えて行きましょう。兄弟の皆さん、自然に対する尊敬が失われ、自然が攻撃され、兄弟性が侵害された結果、贅沢と廃棄物とが対をなしてやってくるところで、兄弟的な宇宙観から生まれる態度を身につけましょう。どのような理由であれ、不正義や命の価値を冒涇した結果の死を受け入れないようにしましょう。むしろ、与えられた命を全うした結果である死、生命そのものの変化であり、復活である死を受け入れましょう。私たちの実践計画の中には、「フランスカンの行動を通して、どのような世界プロジェクトを立ち上げようとしているのか」との問いが、当然のことながら、含まれません。

すべての人々、そしてすべての自然界が豊富に持っている命のために一生を捧げている私たちに対して、聖霊は力強い息吹を送ってくださいませます。そのおかげで、私たちはいつも非常に創造的になれるでしょう。私たちは全員、老いも若きも、信徒の兄弟も司祭も、教授も学生も、養成担当者も養成中の人も、この地球上のすべての生き物を十分に生かすために力を合わせて努力するように、神の霊から求められています。会の中のあらゆる通信手段を通して、ネットワークで一つに結ばれ、創造力を分かち合い、この目的のために働きましょう。

提案

1. 兄弟共同体や職場で、次のような新しい試みを取り入れましょう：周囲の人々や物と敬意に満ちた兄弟的な関係を持つこと；遺伝子組み換え食品を用いないこと；生命を脅かす要素や汚染物質や毒物の入っていない食品を用いること。
2. 典礼の中に、生活のエコロジカルな次元を取り入れましょう：例えば、被造物とそれらを創られた神を賛美したり、す

すべての被造物を父であり、母である創造主の御業として融合させたりすること。

3. 管区レベルで、生命全体を守り、尊敬することへの意識を高めるように励ますような内容を初期および生涯養成プログラムに組み入れましょう。
4. 環境正義や私たちの生活様式が環境に及ぼす影響について考える集会や、セミナー、シンポジウムを私たちの中で、また、一般の人々と共に、推進しましょう。
5. 使徒職やさまざまな活動の中で、環境教育に力を入れましょう。
6. 被造物の保全のために、具体的な行動を起こし、すでにあるよく知られた運動をサポートしていきましょう。
7. 自然界のすべてのもの、特に今日、生活に欠かせないのに、高価で、しかも汚染され、希少になっている「謙遜で、貴く、純潔な」姉妹なる水について、経験や意見、データ、戦略の交換のために、兄弟間および他の人々との国際的なつながりを促進しましょう。

・質問

1. 自分自身の兄弟共同体の中にある環境の不正義の原因を突き止め、評価しましょう。
2. 環境との関係においてしばしば見られる功利的で消費主義的な精神に打ち勝ち、自然界を守り、尊重してゆくにはどうすればよいでしょうか？
3. 私たちのエコロジカルな回心を具体的なものにするにはどうすればよいでしょうか？兄弟共同体の中や、使徒職や仕事の場で、どのような具体的なステップをとることができるでしょうか？
4. 私たちの文化の中であって、環境との調和を促進するような価値とか態度とはどのようなものでしょうか？

Mission Zentrale der Franziskaner
(MZF)-ドイツ、ボン

積極的な非暴力 生活の健全な二極化

総集会の要請により、会のすべての管区は、2003年から2009年の6年間に、JPIIC担当室の助けを借りて、次のことを実行しなければなりません。すなわち、積極的な非暴力の生活様式を推進し、紛争解決に特別の注意を払うこと。

イタリア、アシジでの2003年総集会

・ フランシスコとクララからインスピレーションを受けた福音的非暴力の生活

2003年の総集会は、私たちが個人としても、また、共同体としても、積極的な非暴力の生き方を貫くべきだと提案しています。積極的な非暴力は、福音の精神に基づくものであり、その最も完成された形は、キリストの御体験、使徒たちの体験(福音書)、初期のキリスト者共同体(使徒言行録)の中に見ることができます。

フランシスコとクララが始めたこの運動(フランシスコ-クララ運動)の初期の頃、運動はめざましく発展し、積極的な非暴力の生活様式が生まれました。

積極的な非暴力とは、単なる暴力の不在ではなくて、愛のエネルギーであり、真実の力であり、兄弟の生活を、兄弟共同体を、管区を、そして会全体を活性化する正義の条件なのです。

積極的な非暴力とは、憎悪や嘘や不正義が私たちに突きつける挑戦を前にして何もしないこととか受け身でいるのではなく、確固たる信念と不屈の忍耐をもって闘おうとする態度のことです。それは、紛争を解決し、緊張や健全な二極化はあっても、人々が適度な調和を保って共に生きることのできる平和な環境を作ろうとたゆまぬ努力をすることなのです。

ヨハネによる福音書 17 章 15 節の中で、イエスは父なる神に「私がお願いするのは、彼らを世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださることです」と祈っておられます。フランスコ-クララ運動が始めた生活様式とは、悪い者との戦いにおいて、世から離れることなく、堪え忍ぶ方法であり、非暴力の生き方を貫く態度によって特徴づけられます。それは、次のような場合です：

- 1．巡業の旅をして、何も自分の物を持たずに生きることによって、生活のもろさを自分の身に引き受けるとき；
- 2．分裂のある社会に身を置きながら、フランススコのハンセン病者への憐れみの心を持ち続け、被疎外者との連帯が生き方の基本となるとき；
- 3．相違点が排除されることなく受け入れられるとき、そして、他者との関わりにおいて「小さき者」となるとき；
- 4．「太陽の歌」の精神に沿って、全自然界との兄弟愛に満ちた関係を築くことにより、エコロジーが実践される時；
- 5．フランススコが馬槽を再現して示した庶民的な信仰表現のように、福音宣教が文化に密着したものと捉えられるとき；
- 6．フランススコが十字軍に参加したときそうしたように、フランススコの「平和と善」の挨拶を前提とするプログラムができるだけ完全に実践される時；
- 7．御聖体を特に重んじるクララの霊性が生かされ、フランススコの庶民的な信心深さが、十字架に付けられたキリストと聖母マリアへの愛に見事に現れるとき；
- 8．神の御言葉の祈りに満ちた奉読が、私たちの霊性と神秘主義の不可欠な部分として実践される時。

使徒聖パウロはこう言っています：「だから、わたしとしては、やみくもに走ったりしないし、空を打つような拳闘もしません」（1コリント 9：26）。マハトマ・ガンジーは自分の敵がだれであるかを、はっきり知っていました。それは、大英帝国だったので

す。マーチン・ルーサー・キング・ジュニアも、当時の北米の黒人の敵がだれであるかをはっきり理解していました。

非暴力の闘いは、それを生きぬこうとする人たちに周到な準備を要求します。即席の非暴力などあり得ないのです。あっても、役に立ちません。行き当たりばったりで生きる人は、敗北を運命づけられています。時のしるしを読み、それを福音書と科学に照らし合わせて解釈する能力は、積極的な非暴力に不可欠の要素です。見て、判断して、行動して、祝う方法論 (methodology of See, Judge, Act and Celebrate) は、多くの人が理解と非暴力の行動の確実な方法と考えています。

・ 個人的な生活に見られる暴力

自分自身に向けられる暴力の形はさまざまです。宇宙の創造の時に、神がすべてを非常に善く、美しいと思われたならば、なぜ、自尊心の欠如に由来する暴力が存在するのでしょうか？非常に多くのフランスカンたちが、自分のことを大切にしていないために、自分自身の愛し方を知りません。アシジのフランスコが兄弟なる太陽、姉妹なる月や星のゆえに神を賛美したのに、なぜ私たちは、神がくださった、そしてこれからもくださるいのちと恵みのゆえに神を賛美しないのでしょうか？自分の摂取する食べ物や飲み物によって、また、歩かず、運動しないことによって、私たちはどれほど自分の体を痛めつけているのでしょうか。また、修練期にあれほどの熱意をもって始め、初期養成期間中続けた勉学と霊的成長を停滞させることによって、どれほど自分を粗末にしているのでしょうか。自分に対して行っているさまざまな種類の暴力を列挙してみましょう。その原因は何でしょうか？こうした暴力の原因となっている人々とは誰のことでしょうか？どのような手段で暴力を行っているのでしょうか？

・ 地域および管区の兄弟生活に見られる暴力

間違った理解の仕方や奉仕の仕方、権力の行使がなければ、私

たちフランシスカンの兄弟共同体の生活は、はるかに質のよいものになったでしょう。福音的でフランシスカン的な権力の行使の仕方とは、イエスやアシジのフランシスコやマハトマ・ガンジーが教えてくれているように、兄弟姉妹の足を洗い、自己の利益を求めずに、すべての生き物に仕えることです。

メディアによる窒息も、世界各地のフランシスカン共同体の生活の質を落としています。

他者(otherness)の中に良い点を見いだすことができなければ、共同生活は何と暴力的なものになるでしょうか！違うからこそ、すばらしいのです！空にかかる虹を見てください、虹が美しいのは色が違うからだということがわかるでしょう！兄弟共同体の生活は、常に差異によって二極化されています。二極化は、対立に変わるとき、暴力的なものとなり、緊張の雰囲気を作ります。そして、そのなかではすべてがみんなにとって脅威となるのです。そのほかにも、地域の、あるいは管区の兄弟共同体に影響を及ぼす別の種類の暴力もあります。それらを列挙して、原因や、原因となる人々や使われている手段を突き止めましょう。

・ 私たちが住んでいる社会に見られる暴力

嘘や憎しみ、不正義は私たちの住んでいる社会に根を下ろし、メディアによる暴力を生み出しています（真実でないものが何と多いことでしょうか！さらに悪いことに、一部だけ真実というもの何と多いことか！）；ほかにもいろいろな暴力があります。経済システムに見られる暴力（ばかげた話ですが、戦争がなければ経済は崩壊してしまうのです）；人種や文化に関連する暴力（ホロコーストは世界各地にさまざまな形で今も存在しています）；カトリックの世界にも見られる宗教的な暴力；男性と女性の間に見られる暴力（調和のとれた相互関係、アシジのフランシスコとクララの友情を思わせるような「フランシスコ・クララ的」な言葉を強調する必要があります）；若者と老人の間に見られる暴力；自然界に対する暴力。数え上げたらたくさんあります。列挙してみま

しょう。そして、原因、原因となる人々、使われている手段を突き止めましょう。

・生活の健全な二極化と破壊的な対立

個人の生活および共同体生活は、また自然界の諸要素も、それ自体の中に本来二極化する傾向と一点に集中する傾向とを持っています。憎しみのエネルギーが人間関係の中に広がると、一方は他方の破滅を願うようになり、その結果生まれるのは死と破壊です。真実と正義の現れである愛のエネルギーが支配する人間関係では、両極は互いに相手を励ますので、被造物全体が生命に満ちあふれ、調和と発展と予期せぬ成長が起こります。まさに、「愛は自らの掟を持つ」のです（ブラジルのポピュラーソングで歌われているように）。

私たちは、個人の生活、地域および管区の兄弟生活において、また、社会において、基本的な二極化がどういうものかをはっきりと理解し、その二極化において憎しみのエネルギーと愛のエネルギーのどちらのエネルギーが支配的であるかを見極め、生命と正義と神の国のために、たくさんの愛をもって、非暴力の闘いを遂行することができなければなりません。

・行動のための挑戦

これまで述べてきたことは、既に前から始まっている対話から得た教訓です。この路線に沿って進みましょう。よく考えてください。そして、仲間の人たちと意見を交換してください。ここに書かれたことに対する反対意見があれば、それを述べてください。「二極化」をもたらすことを恐れないでください。でも、二極化が他方を抑圧するような形にならないようにする方法を考えてください。その方法はただ一つです。つまり、個人または共同体のいのちの植木に水をやること、真実という透明な水をやることです。そして、愛のエネルギーを通して、定期的に酸素を与え、正義という道具を使って剪定することです。

・質問

- 1 . あなたは、自分の生活や、地域とか管区の兄弟生活、また、住んでいる社会のどのようところで暴力を体験しますか？
- 2 . 自分の文化の中に、積極的な非暴力を推進するような価値観や態度がありますか。あるとすれば、それはどのようなものですか？
- 3 . 自分個人の生活や地域・管区の兄弟生活、社会生活において、福音に根ざした「フランシスコ・クララの」な非暴力の生活様式を打ち立て、強化するためには、どのようなステップを先ず踏むべきでしょうか？
- 4 . 貧困や社会的疎外、自然を破壊するような開発、市場経済至上主義などに見られる、いわゆる組織的な暴力を克服するには、どうすればよいでしょうか？
- 5 . 考えるプロセスから、具体的な行動に移るためには、何をしなければならぬでしょうか？

兄弟ホセ・アラミロ、SINFRAJUPE
ブラジル、サンパウロ

難民、移民、少数民族、土地を持たない人々、国内避難民
に対する特別な配慮 どのような人々も不法ではない

総集会の要請により、会のすべての管区は、2003年から2009年の6年間に、J P I C担当室の助けを借りて、次のことを実行しなければなりません。すなわち、難民、移民、少数民族、土地を持たない人々、亡命者に特別な注意を払うこと。

イタリア、アシジでの2003年総集会

「お前たちは、わたしが旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれた。・・・はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。(マタイ 25 : 36-40)

・ 転々と移動する人々：世界的な問題

フランスカンとして、またキリスト者として、私たちは旅人を暖かく迎え入れるように求められています。旅人は毎日私たちの周りにいます。ここで言う旅人とは、私たちがイエスの名によって受け入れている移民労働者、亡命希望者、人身売買された人、土地を持たない人やホームレスの人、国内避難民や難民のことです。

人々の移動は増え続け、史上最高となっています。国連の統計によれば、世界の3パーセント、およそ1億7500万の人々が、母国を離れています。その上、2500万の人々が母国の国内避難民となっています。私たちは日々の使徒職や宣教使命の中で、これらの兄弟姉妹に対して、義務と責任を有していることを自覚しなければなりません。「最も小さい者」にすることは、神のため

にすることだからです。

これらの傷つきやすい人々について語るとき、人為的な側面を考へと行動の中心に据えることが、フランシスカンとして非常に重要であると思います。人種や性別、言語、貧困、宗教、民族を理由にして差別したり、偏見を持ったりすることは、断固として拒否しなければなりません。転々と移動する人々のために働くことは、人間性の再建への呼びかけであり、人間一人一人に仕えるという新しい考え方に知性と心を開くようにとの呼びかけなのです。私たちには、神のすべての被造物にフランシスコの愛に満ちたメッセージを届け、彼らの権利を守るために闘う使命があります。

人間がよそ者（stranger）となる原因には、内的な要因と外的な要因とがあります。私たちの責任を十分に理解するためには、そうした状況に至る原因をまず見極めなければなりません。例えば：

- 経済・政治・社会状況および環境の崩壊；
- 宗教戦争や民族紛争；
- 難民の脱出や国内避難民；
- 南方や北方の国々の経済危機による貧困層の増大；
- 難民や移民に対する人種差別主義者や外国人嫌いによる憎悪の増大。

転々と移動する人々の多くは、組織されており、人権と尊厳とよりよい生活を求めて闘っています。難民や移民労働者、土地を持たない人々、ホームレス、国内避難民などが運営している運動や組織はたくさんあります。転々と移動する人々は、少しずつ力を得、自分自身の人生の主体になることを学んでいます。転々と移動する人々に特別な注意を払うためには、対話を続け、彼らと共に彼らの組織のために働くことを学ばなければなりません。「世界ソーシャル・フォーラム」は今では、連帯してグローバルな世

界を築くための別の方法について話し合う国際的な場となっています。別の方法とは、普遍的な人権と、すべての国のすべての人の権利と環境を尊重し、社会の正義と平等と民族の主権のために働く民主的な国際システムや制度を基礎とする方法です。

また、転々と移動する人々が今日では、「不法」とのレッテルを貼られており、そのために犠牲者となっているという話をよく耳にします。聖フランシスコがハンセン病患者を抱きしめたことは、貧しい人や疎外された人々のために献身するしるしであり、私たちも彼に倣って、このレッテル付けに反対しなければなりません。「不法」という言葉は、人を犯罪人扱いし、人間の尊厳を貶める言葉ですから、断固として反対すべきです。国連の基本原則は私たちに次のように教えています。すなわち、国は、身分の別なくすべての人民の基本的な人権を育成し、擁護し、保証する義務があると。

・ フランシスカンとしての私たちの応答

よそ者を暖かく迎え入れる積極的な態度と行動を育成するための既存の運動はたくさんあり、フランシスカンはそれらに参加することができます。例えば；

- 転々と移動する人々を受け入れ、尊敬するしるしとして、分かち合いと連帯の暖かい雰囲気を作ること；
- 転々と移動する人々に対してなされた悪行を糾弾すること；
- 自分のできる方法で、貧困撲滅を促進すること；
- 転々と移動する人々たちを受け入れるために、兄弟愛の精神で私たちの家を開放すること；
- 転々と移動する人々が作った組織のために働くこと；
- 人間の尊厳と基本的人権の尊重の問題を、国内的・国際的移住者についての政策の中心に据えるよう国々に働きかけること。

．質問

- 1． 転々と移動する人々を認めることは、キリストを認めることでもあるのです。では、どのように彼らを認め、彼らに仕えることができるでしょうか？
- 2． 転々と移動する人々のニーズに応える合法的な手段とはどんなものでしょうか？これらのニーズにどのように応えることができるでしょうか？
- 3． イエスもフランシスコも、名もない小さな人々に向かって出かける移住者であり、巡業者であると考えられていました。私たちは、自分の使徒職や活動の中で、二人の模範をどのように表すことができるでしょうか？
- 4． どうすれば、転々と移動する人々の体験に共感することができるでしょうか？
- 5． フランシスコのように、よそ者（stranger）の中に神の御顔を見いだすにはどうすればよいでしょうか？転々と移動する人々に対する私たちの使徒的・預言的使命とは何でしょうか？

フランシスカンズ・インターナショナル(FI)
スイス、ジュネーブ

倫理的投資 - 信頼性、共産社会的責任、福音的価値観

総集会の要請により、経済関係協議会 (*the Council for Economic Affairs*) は、2003年から2006年の3年間に、会全体および管区レベルで、財産の責任ある活用のためのガイドラインを作成しなければなりません。

イタリア、アジジでの2003年総集會

．なぜ私たちは財産の倫理的な活用に配慮しなければならないか

遠い昔から、兄弟たちは生活し、働くのに必要な資源を世の中に求めてきました。そのように世と関わっていくためには、世の中で生きていなくてはなりませんし、そこには、兄弟たちの生活を支え、私たちの使徒的努力を支えるために私たちに委ねられている資源をどのように活用すべきかという問題も生じてきます。私たちの財産を責任をもって生かすためのガイドラインを作成するようにとの総集会の要請は、この精神に基づいています。

現代のフランスカンたちは、生活や使徒職の中で、金銭やその他の財産を扱う必要性をごく普通のことと捉えています。会のすべての管区は、自分たちの必要をまかなうためにある程度の資本を蓄えています。そのような資本があり、それをフランスカンの使命という観点でうまく管理する必要があるのですが、そこで重要ないくつかの質問が出てきます。まず、会のすべてのレベルで（全体で、管区で、地域で）問うてみるべき質問は「各管区はどのような資本を保有しているか？」ということです。共同体の財産を正確に評価し、慎重な経済計画を立てるという倫理的責任が私たちにはあります。それは、私たちの持っているものを賢く使うためです。第二に、財産の管理者として問うべき質問は「私たちの資本はどのように使われているか？」です。私たちは、良

き忠実なしもべのように、資本を神の国のために生かす使い方をしなければなりません。そして、最後に問うべき質問は「資本はどこに保管され、儲けはどれくらいか？」ということです。私たちは、イエス・キリストの弟子として、フランシスコに従い、財産を福音の原則に従って管理しなければなりません。

キリスト者として経済活動に参加する私たちの主要目的は、各人およびすべての人の総合的な発展に配慮しながら、共通の利益を求めることです。地球および地球上のすべてのものは創造主である神に属しており、私たちは責任ある管理者としてそれらの世話をしなければならぬと思います。私たちはこの世の財産を未来の世代の人々のために残し、増やすような形で活用しなければなりません。このように、この世の物には普遍的な目的があり、金銭はそれ自体では意味を持ちませんが、神の被造物を育むという使命を持っています。経済情勢は複雑なので、何が財産の「最良の使い方なのか」を判断するのは困難ですが、キリスト者は、何が可能な選択肢なのかを理解し、財産を最大限に生かす努力をしなければなりません。

すべての修道者は、私たちの生活のこの側面に特別な注意を払うよう求められており、総長・会長連盟はこの方面での私たちの努力を奨励しています。総長・会長連盟、その第60回総会の総括文書(2002年5月、「今日の奉獻生活における経済と宣教使命」The Economy and Mission in Consecrated Life Today)の中で、すべての修道会・宣教会は、自らの経済・社会活動を見直すようにと勧めています。

フランシスカンである私たちには、私たちの財産を有効に活用するさらに大きな責任があります。例えば、内側に目を向ければ、清貧の誓願を立てた修道者としてこの問題を考える必要がありますし、外側に目を向ければ、世界の貧しい人々のために社会正義を打ち立てるべき人として、この問題に取り組まなければなりません。

せん。使徒職活動推進のために現在使われておらず、将来も会員のために使う必要のないお金は、万一に備えて蓄えておくべきではありません。むしろ、フランシスコの気前の良さと福音的熱意に倣って、社会の底辺に置かれている人々の権利と発展を促進するために使われるべきです。

・ 経済的・金銭的活動に関する倫理的ポリシーをどのように打ち立てるか

私たちの保有する資本について上に述べた質問に答えるために、また、資本が経済的にも倫理的にも最良の方法で使われているかどうかを判断するために、総集会はガイドラインの作成を要請しています。私たちの価値観に沿ったガイドラインがあれば、会としての、また、各管区の経済的・金銭的活動を方向付ける役に立つと思います。これらのガイドラインの作成は、兄弟たちとその筋の専門家から成る国際委員会に委託することができます。この委員会には、ローマのJ P I C担当室の兄弟および会の財務部の兄弟が含まれます。この委員会は、兄弟たちおよび各管区と緊密に協力して働くことになりませんが、財産とその活用に関する討議に参加するチャンス을すべての兄弟に与えるために、委員会の任務をすべての兄弟と分かち合うことが勧められます。そうすれば、皆がガイドラインを理解することができるでしょう。これらのガイドラインに従えば、会のすべてのレベルで兄弟たちが、倫理的投資の問題に特別な注意を払いながら、経済・金銭問題に関する特別方針を打ち立てるように励まされるでしょう。委員会と各管区との効果的な協力体制があれば、すでに有効性を実証された具体的活動を共に実践することができます。その過程には常に管区会計とJ P I C委員会が関わるべきです。

そのようなガイドラインを作成するためには、金銭や物品に対する自分の関わり方をよく吟味する必要があります。例えば、兄

弟たちの生活および使徒職に必要な物を満たすにはどうすればよいかを見直すとかが、具体的な生活環境において自分の使命に忠実でありつづけるためにはどうすればよいかを考えるなどです。ガイドラインの作成により、私たちの経済的・金銭的活動はフランスカンとしての使命遂行に調和したものとなり、連帯というグローバルな文化に貢献することができると同時に、グローバリゼーションのプロセスをより人間的で、より倫理的なものにすることができるとでしょう。

経済的・金銭的活動のための倫理的ガイドラインを作成するに当たり、検討しなければならない課題があります。それは、「倫理的投資」あるいは「社会的に責任のある投資」についてです。そのような投資とは、つまり、お金を、株や証券や債権その他の金融商品など、一定の倫理基準を満たす（例えば、生命を尊重し、環境を大事にし、人権を守り、平和を促進するなど）ものに換えて蓄えようとすることを指します。倫理的投資のためのガイドラインを作成することにより、私たちの投資しているお金に何が起きているかを理解することができますし、私たちの投資によって誰が利益を得ているかを知ることができます。また、仲介人が私たちのお金を、私たちの価値観と矛盾するような業種に投資しないように監視することができます。他の修道者や利害関係者と共に働くことにより、私たちは会として、企業が倫理基準を満たし、銀行や金融機関が倫理的なポートフォリオを提供するように私たちの経済的影響力を行使することができるのです（南アフリカの人種隔離政策が廃止されたことは、株主たちが地域レベル・国際レベルで他の関係者たちと協力しながらとった行動が実を結んだ良い例です）。私たちがフランスカンとして、財産の倫理的投資について真剣に考えないならば、正義と平和と被造物の保全に対する関心を文書と司牧活動によって宣べ伝えている私たちの姿勢は、偽善者のように見えてしまう危険があります。そして、その関心を私たちに委ねられた物品の管理に向けることができなくなってしまおうでしょう。

．質問

- 1 . 金銭やその他の財産に対して、私たちはどのような態度をとっているのでしょうか？私たちは、金銭や財産を、私たちフランスカンも使わなければならない現代の「必要悪」と見ているのでしょうか？それとも、福音書の精神に従って、この世で「善きもの」を追求する物的手段と見ているのでしょうか？
- 2 . 私たちは財産を「自分たちの物」と考えているのでしょうか？それとも、私たちフランスカン共同体だけでなく、人類共同体全体の尊厳と幸福を図るために責任ある運用を神から委ねられた物と考えているのでしょうか？
- 3 . 私たちはこれまで財産をどのように使って来たのでしょうか？その使い方は、私たちの生き方、私たちの価値観をどのように表しているのでしょうか？
- 4 . あなたの管区の経済的優先事項(financial priorities)は何ですか？優先事項を決める上で、どのようなフランスカンの価値観が反映されていますか？
- 5 . 管区の投資が「倫理的」かつ「社会的責任を果たすもの」であるために、投資顧問にどのようなガイダンスを与えていますか？そのガイダンスは、どのようなフランスカンの価値観に基づいていますか？
- 6 . 会とその管区の投資に関する決定に責任を有しているのは誰ですか？財産に関する決定に兄弟たちはどのように参加していますか？

兄弟ジョセフ・ロザンスキー、
米国、ワシントン D.C.

財産の責任ある使い方 重要なものとそれほど重要でないもの

総集会の要請により、経済関係協議会 (the Council for Economic Affairs) は、2003年から2006年の3年間に、会全体および管区レベルで、財産の責任ある活用のためのガイドラインを作成しなければなりません。

イタリア、アシジでの2003年総集会

考えるきっかけとなったエピソード

ある若い母親が一人息子のことを非常に心配していた。その子供は完全に健康であったにもかかわらず、3才になってもいまだに話し方を知らずにいた。一言も言葉を発したことがなかったのである。母親は、しきりに子供をあやして話させようとしたが、その子供は一言も話そうとしなかった。母親は息子をいろいろな医者に診せたが、どの医者もその子供に何の異常も見いだせなかった。医者たちは、その子供は健康上は何の問題もないと母親に告げたが、誰一人として、その子供に話しをさせることはできなかった。母親は、その子供のことを生まれてからずっと気にかけて来たが、ついに、いつかは口がきけるようになるだろうという希望をすっかり捨ててしまった。

ある日、母親が息子に夕食を食べさせていたとき、とうとうその息子が口をきいた。「スープが熱すぎて、舌がやけどしたよ」と言ったのである。母親はそれを聞いて大喜びして言った:「お前が何か言ってくれるのを長いこと待っていたのよ。どれほど待ちこがれたかわからないわ。どうして今まで何も言ってくれなかったの?」その子供は答えた:「だって、今まで何も困らなかったんだもの。」

私たちはどれほど、批判するためにだけ、不平を言うためにだけ口を開いているのでしょうか？良いことを感謝するための努力の何と少ないことでしょうか？

・考察：金銭に対する態度

お金を払えば、どんな問題でも解決する。どんな敵だってやつつけられるし、どんな危機にも対処できるし、どんな過ちも正すことができる。私たちはお金のことを、こんなふうに、どんな困難からも救い出してくれるものと思っているようです。私たちは、お金があれば、あらゆる危機を乗り越えられるし、あらゆる問題に答えを出すことができると考えがちです。それが本当なら、ブッシュ大統領はもうとっくにテロリズムをこの地上から一掃できているはずです。

しかし現実には、お金はたしかにあつたらすばらしいものですがけれども、それ自体では何もできないのです。本当の変化は、正しいことを行うために、また、現実の問題に現実的な解決策を見いだすために、人々や組織がお金の力に頼ることなく、想像力と能力と勇気を働かせたときに初めて起こるものです。まことの解決策は、お金の力に左右されずに、どこで間違えたのかを理解し、問題に対する現実的な答えを見いだすことによって生まれるのです。

聖フランシスコの謙遜と清貧、ガンジーの単純さ、マザーテレサの思いやりは、世界に変化をもたらしました。その変化は、お金の力によっては決してもたらされ得なかったものです。もっとも難しい状況が最良の解決を見るとき、たいていの場合、お金とはほとんど、あるいは全く関係がありません。

お金は発展のための偉大な潤滑油かもしれません。確かに、お

金は私たちの生活に入ってきてから、私たちの生き方を大きく変えました。そして、多くの人が考え、信じているように、お金は世界をある意味で動かしています。しかし、お金があっても、夢や虹を買うことはできないのです。

よく言われているように、お金があって、お金で物が買えるのは良いことです。けれども、お金では買えない物は決して失うことがないことを、たまには確認してみるのも良いことです。そうです。お金でできることは何かを理解するということは、お金があってもできないことは何かを理解することなのです。

・関心事

- 1．説明責任および透明性の精神
- 2．寄付する必要。消費主義の渦は、私たちの個人的・共同体的生活様式にも影響を与えています。私たちの多くは、フラストレーションや緊張を感じると、そのはけ口として、買い物に走ります。私たちの貞潔の誓願は、単なる非生産的な存在に陥ってしまったのでしょうか？私たちの創造力と豊かさがより高次の表現力を備えなければ、それは底なしの欲望に沈んでしまうかもしれません。
- 3．経済観念。

清貧の誓願によって、私たちは出費を意識的、計画的に管理するよう求められています。例えば、

- 出費を本当に必要な時に限る。
- 無駄をなくす。食費や光熱費、電話代、インターネット代、コンピューター関連費、文具費、衣料費の節約。
- スーパーマーケットでたやすく買えるからといって、費用や必要の度合いを無視して物を買わないように

する。

- 支払いや納税で違約金・遅延金などを払わずにすむように対処する。
- 自分のために支払い能力を超えた出費を避けること。収入以上の支出は経済管理を危うくすることになる。

4 . ファイリング、記録管理、文書化。必要な帳簿付けを時々行う。それも、義務だから仕方なくするのではなく、喜んで行い、次の世代に引き渡せるようにする。そうすれば、波及効果が生まれる。財産の適切な記録保管は、経済管理の効果的な道具となる。

5 . 物品と財産の管理運用。

組織の成功は、財産の効果的な短期運用にかかっていますが、その短期運用は、長期的な展望と目標に基づくものでなくてはなりません。実際的な日々の管理責任と未来の発展のための戦略決定責任は、きちんと分けて考える必要があります。私たちは目標をはっきりと見定め、失敗を恐れず、情報過多のために分析不能になることもなく、徹底的に考え抜いて、可能な解決策を見いださなければなりません。

ということは、すなわち、考えていることを情熱と責任をもって実践することができなくてはならないという意味です。慎重に経済管理するためには、合理的な考えと先入観のない常識、そして夢を選ぶ勇気と信念が必要です。

すべての兄弟は、漁師が舟と網を必要とするように、兄弟共同体を必要とします。良い漁師は、自分の舟と網をとっても大切にします。なぜなら、それらは自分のアイデンティティーを支えるものであり、生活の安定と糧を与えてくれるものだからです。同じことが兄弟共同体と個人との間の関係にも言えます。

会（管区）の執行部は、会（管区）の発展と日々の管理運営を同時にこなせなければなりません。長期計画、被造物の保全、若い人や老人たちの世話、人的資源の強化、財産の最有効活用などは、管理システムの中に組み入れられるべきです。適切な経済的成長、計画、管理のためには、楽観主義だけでは不十分です。監視することが絶対に必要です。もちろん、それに際しては、人により事情が異なるので、人情味を加えることを忘れてはなりません。

．質問

- 6．自分に委ねられた財産（資源）の評価をしなさい。自分が自由に使えるさまざまな財産（資源）に名前を付けなさい。例えば、物的財産（資源）（建物、物品、車など）、経済的資源（金融、投資など）、文化的財産（社会的地位、名声、権力など）、知的財産（情報、知識、技術など）、組織的資源（人材、通信能力、動員力など）、環境資源（土地、水など）、精神的財産（価値観、熟達した意味把握、人々の間に信頼感と善意を生み出す能力など）。
- 7．あなたはどんなことに不満を持っていますか？どんなときに不満を感じますか？なぜ不満に感じるのでしょうか？
- 8．あなたは自分が自由に使える資源をどのように評価しますか？それらを賢く活用するよりよい手段や方法とはどのようなものですか？列挙しなさい。
- 9．長期計画と短期計画を立て、それらをだれが、どこで、いつ、どのように実行するかを明記した具体的なアクションプランを作成しなさい。

兄弟ボビー・ヴァダッカル、
兄弟バブ・ホセ・パンパニー
インド、バンガロール

J P I C コース 教えと使命（実践）

総集会は、被造物の問題と非暴力の問題に特別の注意を払う J P I C のためのコースをローマの P U A（アントニアヌム教皇庁立神学大学）に設けること、また、同様のコースをすべてのフランシスコ会の高等教育機関に設けるよう要請する。

イタリア、アシジでの 2003 年総集会

・総集会

総集会の総括文書「主があなたに平和を与えてくださいますように」は、フランシスコに示された挨拶を中心に据えています。この挨拶には、被造物の破壊に直面して、平和と正義と被造物の保全を達成することへの人類の悲願が込められています。この総括文書は、希望のしるしと困窮・悲惨・戦争・環境破壊のしるしが微妙な均衡を保っているこの混沌とした世界の現状を考慮し、この世界に神の国の価値観を打ち立てるために全力を尽くすフランシスカンとしての義務が私たちにあることを気づかせてくれます。このようにして、私たち小さき兄弟は、平和の使節として（1 チェラノ 24 参照）、また、「新しい世界」の証し人として（1 チェラノ 36 参照）、フランシスコと当時の兄弟たちと共に、イエス・キリストの教えと足跡に従うという長く続いた伝統を忠実に守ってゆくのですね。およそ 8 世紀にわたるフランシスカンの伝統の中で、さまざまな歴史の波に洗われながら、小さき兄弟たちはその福音的精神によって、絶えず平和と正義と被造物の保全に一身を捧げて来ました。そのような神の国の価値観を促進しようとする、この絶えず新たにされる使命感を根底から支えているのは、深い神学的、哲学的、霊的考察です。具体的な日常生活が信仰の土台に投げかける挑戦に対して、このような知的考察によって応えたからこそ、いつの時代にも、小さき兄弟たちは偏見や障害物（内面的なものも含めて）を克服することができ、また、生きた信仰

を通して初めて神から与えられる「新しい世界」の信頼できる証し人ともなれたのです。このように、教義は常に実践の役に立つものであり、福音の教えの実践に根ざす信仰から突きつけられる具体的な挑戦に応えようとするものでした。教えと使命（実践）の相互作用は、人類および世界の歴史の中に救いのメッセージを根付かせようとするものであったのです。この救いのメッセージが、この世に存在するさまざまな紛争や、不正、自然破壊などによって危険にさらされているからこそ、小さき兄弟たちは、平和と正義と被造物の尊厳を守るために、特別な方法で献身するよう招かれていると感じています。この献身によって、世の中に福音の種を蒔く土壌が出来上がるのです。

・ 哲学的・神学的探求と J P I C

哲学的・神学的・霊的探求において、信仰から生まれる土台というものが、平和のための具体的な使命と共に明らかになりました。このように、実践的行動は徹底的な探求と研究を基礎としています。同時に教えというものは、信仰という遺産を単に伝承することでもなければ、論理的思考を紹介することでもありません。それは、時代の文化的な挑戦の中に神が示される啓示から答えを探そうとする不安定な試みであり、小さき兄弟たちが直面していると感じていたことです。P U Aのような現存の養成研究機関は、私たちの伝統に固有の歴史的・文化的挑戦を通して、この教えと使命（実践）の相互作用を推進しなくてはなりません。

総集会の総括文書は、現代世界と福音それ自体が私たちに求めていることとは、信仰を新たにし、深めて、今日の神の国を証しすることであると述べています。私たちの世界を福音化するというこの新しい使命を果たすためには、信仰という私たちの財産、私たちの伝統、私たちの世界をよく知る必要があります。P U Aのような養成機関は、具体的な世界からの挑戦、信仰箇条、フランスカンの伝統が互いに対話する場なのです。このような対話によって（知的な対応をも含めて）、現代社会に通用する確かなフラ

ンシスカンの平和のメッセージを告げ知らせる方法と手段が見つかるに違いありません。このような対話は、長いフランスカンの伝統と、世界に見られる対立、不正、被造物の破壊に断固反対の態度をとろうとする会の研究活動に合致しています。なぜなら、いずれも、本当の原因を突き止めて、糾弾し、福音の教えから、J P I Cを推進するような方法を見いだすことを目的としているからです。

平和、正義、非暴力、被造物の保全是、決して些末な問題でもなければ、哲学的・神学的考察の周辺に置かれるべき問題でもありません。それどころか、これらの問題は、私たち小さき兄弟が仕えるべき神の国の中核をなしているのです。養成と学問において、これら神の国の中心の問題に然るべき地位を与えることが必要です。それは、この問題がフランスカンの伝統と現代世界の挑戦との関係において捉えられるときに初めて可能となります。福音の教えと神の国は、小さき兄弟たちに、全知力を傾けてこれらの問題に取り組むようにと勤めています。

・ 質問

- 1 . J P I Cの問題について受けた教育は、あなたにとってどれくらい重要ですか？
- 2 . 現代世界の具体的な課題の中で、より体系的なアプローチを必要とするものはどれですか？
- 3 . 私たちの使徒職や労働、生活体験が、私たちの研究機関におけるJ P I Cコースの内容となるためには、どうすればよいでしょうか？
- 4 . あなたの管区、あなたの国にあるJ P I C関連コースとはどのようなものですか？

兄弟ヨハネス・バプチスト・フレイヤー
イタリア、ローマ、アントニアヌム教皇庁立神学大学

The Lord Give You Peace
A NEW WORLD IS POSSIBLE
Pamphlet to help implementation
Of the 2003 OFM General Chapter
Proposals in regard to JPIC
2005

新しい世界は可能である

2005年5月31日 聖母の訪問

翻訳・発行：フランシスコ会 日本管区本部

〒106-0032 東京都港区六本木 4-2-39

聖ヨゼフ修道院

<http://www.ofm-j.or.jp/>

TEL: 03-3403-8099

FAX: 03-3401-3215



小さき兄弟会



<http://www.ofm-jpic.org/>